

工事の安全あらためて願う 酒田駅前再開発事業の上棟式



酒田市などがJR酒田駅前を進めている再開発事業の上棟式が29日、同市幸町一丁目の建設現場で行われ、ホテルなどが入るA棟最上階の梁をつり上げ、工事の安全と順調な進捗をあらためて願った。

同事業は、市と西松建設（東京都）の共同出資による「光の溇株式会社」（野

村信社長）が事業主体となり、都市再開発法に基づき第一種市街地再開発事業として進めている。旧ジャスコ酒田駅前跡地と周辺の約1・4畝を計画区域に、市のライブラリーセンターやホテル、バンケット、レストランなどが入るA棟（鉄骨造り地上8階建て、延べ床面積1万1364平方

メートル）が、バスベイや店舗、立体駐車場が入るB棟（同5階建て、同7443平方メートル）、分譲マンションのC棟（鉄筋コンクリート造り、同5138平方メートル）の3棟を整備するもの。ライブラ

リーセンターなど市の公共施設部分は2020年10月ごろ、全体としては22年4月ごろのオープンを目指す。総事業費は109億5000万円を見込み、公共施設部分は完成後に市が29億7000万円取得する。

メイン工事は西松建設北日本支社（仙台市）と大場建設（酒田市）、菅原工務所（同）の3社による西松・大場・菅原特定建設工事共同企業体（JV）が請け負い、今年1月に着工した。

この日の上棟式には市や市議会、地権者、建設関係者ら約60人が参列。神事を行った後、A棟最上階（8階）の最後の鉄骨製梁一本（長さ約5・4メートル）をつり上げるセレモニーを行った。西松建設北日本支社の濱崎伸介支社長、光の溇の

野村社長、丸山至市長らが梁にホルトを入れ、固定、点検した後、クレーンで高さ約32メートルの設置場所に運ばれると、拍手が起った。

その後、丸山市長は「市内では東北公益文科大（2001年開学）以来の大規模事業。酒田の顔である駅前の拠点として、にぎわいを支えることに期待」、野村社長は「建物が目に見える形になり、日に日に市民の期待が強まっていると感じる。引き続き協力を」とあいさつした。その後、浜田小の天狗舞・獅子舞クラブの5、6年生が酒田獅子舞を披露した。